令和７年度豆類振興事業（試験研究助成費）の成果概要

⑤　課　題：リモートセンシング型の収量評価および実需者型の加工適性評価を活用した金時系統の選抜強化（5～7年度）
代表者：(地独)北海道立総合研究機構　十勝農業試験場
豆類畑作グループ　研究主任　佐藤博一

目　的

多収で煮豆加工適性に優れた金時新品種の開発を促進するため、リモートセンシングを活用した多収系統選抜法を開発するとともに、育種における中後期世代について煮豆加工適性に優れる系統を選抜する。

成　果

①リモートセンシングを用いた多収選抜法の検討

・小規模生産力検定予備試験区において、7月中旬の正規化植生指数（NDVI）は、子実重との相関係数が高かった。
・ NDVIが低い系統を圃場で廃棄すると選抜を効率化できると考えられた。

②レトルトパウチおよびカップによる加工特性評価

・カップはパウチに比べて、煮豆が柔らかく、皮破れが多かった。
・カップ形態では、ややかためのの特性を持つ材料の方が、加工条件により煮豆の柔らかさを制御しやすいと考えられた。

③中後期世代系統における煮熟特性の選抜

・極少量で煮熟適性を評価し、皮切れおよび煮崩れが同程度または少ない系統を選抜した。

④少量原料での煮豆官能評価

・少量で製品を試作して煮豆加工特性を評価した。

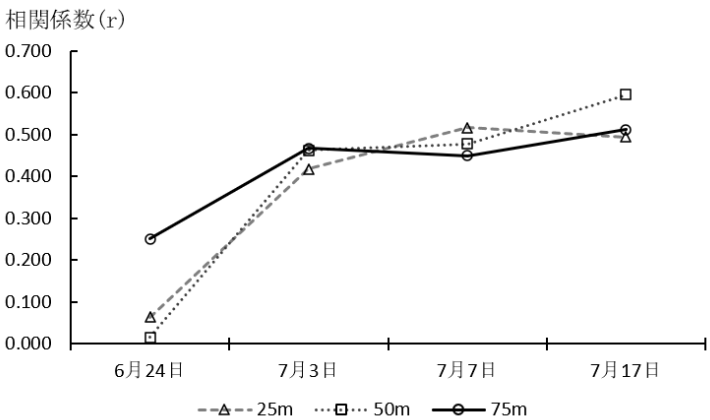


図　時期および撮影高度別の正規化植生指数（NDVI）と子実重との相関係数